

一般質問から

※ここに掲げている質問は、一般質問の一部を抜粋したものです。

自民党 県議団



どもに伝える重要性を啓発する。

人口移動と産業構造変化について。
A 若者をはじめとする人口流出に歯止めをかけるため、雇用の場をつくる必要がある。

桐明議員 人口減少対策として、県全体、及び県内4地区の「人口維持目標値」を設定すべきと考える。

川端議員 学校における正しい日本地図の掲示等の推進について、教育長の考えを問う。

業誘致や公的な遊休施設等の活用について。
A 東九州自動車道行橋インターチェンジなどの供用開始により、田川地域と京築地域との交通アクセスはさらに向上した。

長議員 がん教育へのこれまでのかかりと今後の取り組みについて。
A 現在、各学校では保健の授業などで、生活習慣病との関連でがんについて学習している。

阿部議員 薬物依存者の医療と社会復帰の取り組みについて問う。
A 現在、県では、保健福祉環境事務所などにおいて、薬物依存症者やその家族に対し自助グループを紹介、精神保健福祉センターでは、家族教室を実施している。

浦田議員 石炭・歴史博物館は、県と市の共同運営が望ましい。また、県がリーダーシップを取り、国・県・市が一体となり保存活用に努めるべきだ。

吉村議員 市町村における持続可能な地域公共交通ネットワーク整備の現状と県の対応について。
A 現在、多くの市町村では、通学等の移動手段の確保が重要な課題となっている。

梶島議員 学校で武道を学ばせる意義と、武道教育の充実について。
A 武道は、「礼」を重んじ、「道」を学び合うという我が国の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重することを重視する運動である。

井上議員 大宰府政庁跡・水城跡・大野城跡の一連の歴史的遺産群についての認識及び、大野城跡の調査結果について問う。
A これらの遺産群は、国の特別史跡に指定され、国内でも有数の規模を誇る遺産であり、我が国を代表する貴重な歴史遺産であると認識している。

津田議員 救急車の適正利用に關して、これまでの取り組みと今後の対策は。
A 県では、消防本部や市町村に対し、住民の皆さまに周知するよう、様々な場を捉えて指導している。

松尾議員 ベンチャーの起業支援をどう強化するのか。
A 県では、ベンチャーを志す人を対象に創業セミナーや創業塾を開催している。

堀議員 東九州自動車道行橋インターチェンジ開通など注目度を増している京築地域の県内での位置づけや今後の発展策について。
A 京築地域は豊かな山海の幸や神楽などの伝統文化も継承されている魅力ある地域だ。

板橋議員 未婚化・晩婚化対策として、結婚や家庭などの意義を親子にも伝えることについて、教育長の所見は。
A 少子化防止の観点から、保護者が子どもに家庭の大切さなどを語り、将来自分の家庭を築くという意識を持たせることが必要である。

塩川議員 子どもたちの成長に必要な、困難経験を伴う取り組みについて、教育長の所見を問う。
A 「子どもだけで作る『弁当の日』」「運動会での一輪車による演技」など、学校現場が子どもたちを「鍛えて、ほめて、のばす」明確な指導目標と配慮の下に、困難体験を伴う取り組みを実施する際には、学校及び教職員が自信を持って取り組めるよう、しっかり支えていかなければならないと考えている。

神崎議員 京築地域のポテンシャルを活かした田川地域への企業誘致や公的な遊休施設等の活用について。
A 東九州自動車道行橋インターチェンジなどの供用開始により、田川地域と京築地域との交通アクセスはさらに向上した。

神崎議員 京築地域のポテンシャルを活かした田川地域への企業誘致や公的な遊休施設等の活用について。
A 東九州自動車道行橋インターチェンジなどの供用開始により、田川地域と京築地域との交通アクセスはさらに向上した。



縁友会
梶島 徳博 議員
堀 大助 議員
神崎 聡 議員

神崎議員 京築地域のポテンシャルを活かした田川地域への企業誘致や公的な遊休施設等の活用について。

堀議員 東九州自動車道行橋インターチェンジ開通など注目度を増している京築地域の県内での位置づけや今後の発展策について。